

## 第3回 鳥栖市学校給食のあり方評価委員会

## &lt;基本的事項&gt;

- ・ 鳥栖市が学校給食というサービス提供を行う上で、学校給食法及び学校給食衛生管理基準を遵守することは基本的約束事である。

## &lt;センター化の妥当性&gt;

## ◇ 現在の施設の限界

- ・ 鳥栖市は、学校給食衛生管理基準を遵守するために、施設面で対応できない安全の確保を、学校長、栄養教諭、学校栄養職員、学校保健員等の創意工夫と努力による運用面で補っている。

## ◇ 現在の施設運用の弊害

- ・ 一方で、現在の施設による運用は、構造面から、学校保健員の作業動線の混乱が見られるとともに、調理工程の非効率化が散見される。
- ・ また、安全確保に意識が集中され、学校給食を活かした食育の取組が十分ではない。

## ◇ 施設の抜本的改修の選択肢

- ・ これらを踏まえた対応として施設の抜本的改修が必要であり、その選択肢として、①現在の自校方式の段階的改修、②現在の自校方式をセンター化へ統合、の2つがある。

## ◇ 自校方式の限界

- ・ 自校方式の抜本的改修を考えた場合、現在の学校給食衛生管理基準を遵守するためには、現在の2倍程度の敷地面積が必要であり、鳥栖市の全ての小学校において、その規模の敷地面積確保は物理的に不可能である。
- ・ また、段階的改修といった視点から、全ての自校方式の改修に係る時間及びコストを考えると自校方式の選択肢は妥当とは言えない。

## ◇ センター化の妥当性

- ・ 上記「自校方式の限界」の理由から、鳥栖市の子どもたちにとって最適な選択は、センター化である。
- ・ 鳥栖市は、子ども達の食の安全を最優先に考え、センター建設の対応を図ることが必要であるとともに、その対応を図ることで、子ども達の安全に対する責任を果たすこと。

### ＜センター化の緊急性＞

- ・ 現在の学校給食は、衛生における監督庁である鳥栖保健福祉事務所から、学校給食衛生管理基準を施設面で満たしていないため、早急な対応を図ることを指摘されている。
- ・ 鳥栖市は、センター建設に向けた取組を、早急に行う必要がある。

### ＜センター建設に係る留意点＞

- ・ センター建設にあたって、実際に使用する学校保健員等現場の人の声をよく聞いて、作業効率が上がるように配慮するとともに、働きやすい環境づくりに留意すること。
- ・ センター建設と、こども達への食育の取組強化を両輪で考え、センター化を踏まえた鳥栖しかできない食育モデルを構築すること。
- ・ 子ども達への食育の取組強化にあたっては、小学校が一丸となって取り組むべきことで、教科としてもしっかり取り組むとともに、生きていくために必要な食育も大事にすること。また、これらを具体化するために、栄養教諭の強化を念頭におくこと。